

学校経営推進費 評価報告書（1年目）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	支援学校 生活課程
取り組む課題	(児童・)生徒の自立支援
評価指標	・児童・生徒・保護者の学校満足度の向上 ・地域連携と外部への情報の発信
計画名	「校方支援学校 むげん(夢現)ファーム ～ 根っこワークプロジェクト」

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	3 小学部、中学部、高等部間の連携を強め、卒業後の社会自立をみずえたキャリア教育を柱に、一貫性のある教育を実践する。 (2) 児童・生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、学校周辺地域と連携を深め、知的障がい教育の充実・発展を図る。
事業目標	<p>本事業を活用し「高床式砂栽培システム」を導入することで、本校児童生徒の社会自立に向けた支援を、より豊かなものとする。「むげん(夢現)ファーム」を中心とした活動で学校を活性化し、学校全体をつなぐ新たな教育活動を創造する。プロジェクト名にある「夢を実現する菜園」や「野菜の栽培を通じて、自分たちの仕事で社会に貢献する」をテーマに、地域に根差した児童生徒の夢や希望を育む活動を展開していきたいと考える。</p> <p>本計画では支援学校棟2階ルーフトラスに、ビニールハウスを設置。その内部の高床式砂栽培システムで、葉物野菜(漬菜類)を中心とした様々な農作物の生育を行う。ビニールハウス内で生育を行なうことで、安心安全な野菜生産を年間を通じて行なうことができる。砂栽培は従来の路地での農作物生産に比べ連作被害などが起こりにくく、砂は定期的に洗浄すれば繰り返し使用することができる。また、作業工程がシステマティックに構成されているため、様々な障がい特性のある児童生徒にとっても作業内容がわかりやすく、見通しを持って取り組みやすい。本システムを導入することにより、以下の効果を期待したい。</p> <p>ステップ①: 高等部の園芸や職業コース選択者を中心に、生育に関する一連の活動を体験し、技術を身につける。身近な環境で生育状況を観察し自分たちで生産管理を行なうことで、責任をもって仕事をやりとげる粘り強い心を育成する。</p> <p>ステップ②: 作業に習熟した高等部生徒は、中学部や小学部の児童生徒に対し作業の指導や助言を行う。自分自身が身につけた技術を伝達することで、作業に対する姿勢・技術を、より確かなものとする。異年齢間の活動を通じ、積極的に自分の役割を果たす気持ちを育成する。</p> <p>ステップ③: 学校内で職員や保護者に向けて販売活動を行なう。自分たちが生産したものを販売することにより、自分の仕事が必要とされることを実感し自己有用感を高める。</p> <p>ステップ④: 校外での販売(駅前のJA朝市など)で一般の方々に向けて販売を定期的に行なう。一般の販路にのる農作物を生産するために、より徹底した生産管理を行ない、生産チームで共通の目標をもち、目標達成に向けて努力する協働力を養う。同時に、販売活動を行う中で、地域へ向けて支援教育における職業教育の意義や障がい者への理解・啓発について発信する。また、諸活動についてはリアルタイムでブログ等で情報発信を行い、活動についての即時評価を児童生徒・保護者・教職員・関係者全員で共有する。</p>
整備した 設備・物品(数量)	<p>設備: 高床式砂栽培システム(12)、ビニールハウス(4)、灌水装置(1)、ガーデン造作工事(電源設置工事+水道設置工事)</p> <p>物品: 育苗箱 ブラック(10枚単位)1セット、ペーパーポット(1箱)、PH測定器 1個、EC測定器 1個、ペロースビベット 1個、測量ビーカー 1個、ピンセット 1個、プラバケツ 1個、キャリングホースリール(30mホース)1個、採集コンテナ(3個組)1セット、ハサミ1個</p>
取組みの 主担・実施者	首席、キャリアPTメンバー、高等部 職業コース担当者
本年度の 取組内容	<p>7月:「むげんファーム 根っこワークプロジェクト」職員向け説明会を実施。8月:「グリーンファーム 私の太陽農園(四條畷市)」にて本校職員による現地見学「高床式砂栽培」講習会を実施。8月:工事着工。9月:学校にて「高床式砂栽培」設備説明会および職員講習会を実施。9月:「グリーンファーム 私の太陽農園」にて高等部職業コース生徒による現地見学「高床式砂栽培」講習会を実施。10月:高等部職業コース生徒による播種および定植作業実施。11月:高等部生徒・小学部児童による収穫体験および自校給食で利用(全校分)。第2回学校協議会で成果の報告および委員による「むげんファーム」見学を実施。1月:高等部職業コース生徒と小学部児童の「むげんファーム」での交流作業学習実施。3月:高等部職業コース生徒による収穫作業と小学部生徒への収穫野菜の提供を実施。また、随時、本校ホームページ、PTA運営委員会、学校新聞での情報発信を即時的に行い、「むげんファーム」にまつわる諸活動についての周知を行った</p>
成果の検証方法 と評価指標	<p>主な検証方法と評価指標</p> <p>① 学校教育自己診断結果による学校満足度評価を70%以上にする。</p> <p>その他の検証方法と評価指標</p> <p>② 学校協議会等での外部からの評価</p> <p>③ 授業等での実践での現場職員等からの評価</p>
自己評価	<p>※(記号説明)大きく上回った(◎)、上回った(○)、達成できず(△)、実施できず(x)</p> <p>① 学校評価自己診断結果による評価:本年度の学校教育自己診断の集計結果により、保護者による評価「学校は特色ある教育活動に取り組んでいる。」について全校平均で74%の評価。また「学校は、関係機関(医療、福祉、労働等)と連携して教育活動に取り組んでいる。」について、全校平均で72%の評価があった。(◎)</p> <p>② 学校協議会等での外部からの評価:11月に実施した第2回学校協議会での成果報告及び「むげんファーム」見学では、各委員より計画内容と実施内容についての好意的な評価を全員の方よりいただいた。(◎)</p> <p>③ 授業等での実践での現場職員等からの評価:上記「本年度の取組内容」に記載の通り、技術の習得に関する取組、学部間の交流学習、収穫野菜の自校給食での提供等について行うことができ、好意的な評価が多くあった。特に、ブログ等でのタイムリーな情報発信、児童生徒会役員による校内放送での成果の共有などが効果的であった。(◎)</p>
次年度に向けて	<p>・事業目標のステップ②までは、取組の内容としては到達することができた。しかしながら、気温が下がる冬季には野菜の生育が遅くなり、計画的な生産が難しかった。次年度は、野菜の生産管理について、年間を通じてデータをとり、安定した生産ができるようシステム化をすすめる。生産が安定し、収穫の時期を把握したうえで、定期的に販売活動を実施していく(学期に1回程度)。</p> <p>・また、地域の方々や来校された方との見学や協働活動を活性化させる。本年度効果的であった情報発信を、次年度に向けて一層強化し、「むげんファーム」を、校方支援学校のキャリア教育について具体的に発信する場所として学校内外に向けて定着させる。</p>